

## 自衛隊は憲法違反

# 看板の建替、進行中

1976年に建てられて老朽化が進んだ「九条の丘(射撃場)」の「自衛隊は憲法違反」の大看板を建替えることが、「百里の会」の今年度の大きな事業です。自前(作業協力者の力)での建替を目指して、現在奮闘中です。

### “初午まつり”までの完成を目指しています

現在は、看板を制作する(鉄アングルの骨組み作成と看板用トタンへの描字)を進めています。この作業後に、老朽化した看板の撤去(コンクリートの土台はそのまま使う)を行い、新しい看板の設置(平和公園で組み立てた8枚の看板を運んで設置する)に進みます。

### 今までで最も過酷! 看板の土台の発掘作業を行いました 10月10日

10月というのに、「残暑厳しい!」10月10日(日)、平和公園での看板制作作業の予定を変更して「九条の丘」に集合した8人は、作業史上最も過酷な肉体労働を行いました。それは、丘の上に立つ「自衛隊は憲法違反」の看板の足元の土を掘り、コンクリートの土台をおき出しにする作業です。昼休みを挟んで篠竹の根と格闘すること3時間超、やっとの思いで32個のコンクリートの土台を露出させることに成功しました。この作業で、最も元気だったのは、83歳のHさんでしたが、その粘り腰には感服しました。皆さん、翌日・翌々日はご無事だったでしょうか、少し心配です。この作業によって、古い看板の撤去方法と新しい看板の設置方法が見えてきました。



### 穴を開け、溶接し、塗装する 組み立て作業 11月7日

秋晴れのすがすがしい一日となった11月7日(日)、平和公園での看板制作作業を行いました。今回は「九条の丘」での、作業史上最も過酷な肉体労働でしたが、今回は看板の組み立てと文字を描く鉄板の支柱への取り付け作業、そして塗装作業を行いました。初めての組み立て作業の段取りや溶接作業に手間どったため、いつもより短いお昼休みを挟んで、参加者の5人は15時まで作業しました。看板8枚のうち、4枚が仕上がりにやや不十分さを残しながらも出来上がりました。組み立て方法が少し見えてきましたので、次はスムーズに作業を進められると思います。

### 作業協力者募集中

電話(080-9457-6381)、メール(hyakurip@gmail.com)へ

## 百里平和公園に「憲法九条の碑」を建てよう 理事会で確認

9月28日の理事会では、平和公園に「九条の碑」を建立することの意義を確認しました。寄付を募るとなると運動になるため、「百里の会」が呼びかけ団体となるのは好ましくないため、呼びかけ団体として、百里平和委員会に依頼することになりました。実行委員会など新たな組織はつくらず、団体/個人に賛同を呼びかけます。県平和委員会の意見広告などを参考に運動を進めることや、一坪地主に賛同を呼びかけること、全国に呼びかけることやクラウドファンディングも検討するなどの提案も出されました。

# 百里の会



第18号 2021年11月25日

### 一般社団法人 百里の会

茨城県水戸市見川 5-127-281

Tel 080-9457-6381

E-mail hyakurip@gmail.com

HP <https://hyakurip.web.fc2.com>

# 基地を見下ろす大看板

## 自衛隊は憲法違反は 50年間、何を見てきたか その2

### 5 何を思う百里農民 素朴な疑問 ＜9条改憲でなく9条を活かそう＞

天高く、秋たけなわの戦闘機  
天高く、秋たけなわの野良仕事

百里の上空では人を殺す戦争訓練。その下では人々の食糧を生産している農民。滑走路を助走するパイロットと顔を合わせれば笑顔で手を振り合う若い自衛隊員と悲惨な戦争体験者の百里農民。自衛隊員の笑顔とは裏腹に二度と若者を戦争に行かしてはいけないという思いが秘められています。

1964年9月、55年以来土地を防衛庁に売らず基地反対を続けてきた百里基地反対期成同盟が解散し多くの農家の人たちが土地を手放し百里を去っていき、翌年からF104ジェット戦闘機が百里基地に配備されました。残った8軒の農家の人たちは「期成同盟」が解散されると直ちに10月に現在の反対同盟を再建し土地を売らず今日まで誘導路を「くの字」に曲げて基地反対の初心を貫いてきました。しかし、天命には勝てず8軒の主人公みんな「陸海空その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない」という憲法9条を抱えて天国へ旅立ちました。

私たちはこの反対同盟の農民の意志を守るために百里平和公園を維持管理していますが、これからの運動を発展させるためにも百里農民が何を考え、どんな疑問をもっていたのか、また9条の行方を心配していたかを前号に引き続き綴ってみたいと思います。

### 6 百里農民の素朴な疑問

- ① 歴代の自民党政府は、「自衛のための戦力を持つことは憲法9条で許されている（自衛のためなら核兵器も持てる）。」と勝手な拡大解釈で自衛隊の拡大・強化をしてきましたが、こんなことが許されるのだろうか。
- ② 自衛のためと言いながら、米軍との軍事訓練さらに集団的自衛権（軍事同盟）容認はアメリカの戦争に自衛隊が一緒になって戦うことです。アメリカの戦争に関係のない日本が戦争に巻き込まれる事など許されるのだろうか。
- ③ 日本の防衛予算（軍事費）は5兆3422億円（21

年度）で世界で9番目ですが、日本は核兵器の予算を含んでいないので通常兵器の軍事費はすでにトップクラスに入っています。ちなみに東南アジア諸国連合（アセアン）10カ国の1.5倍に当たります。岸田内閣は防衛予算をGDP2%にまで引き上げようと画策しています。9条と安保条約の矛盾は限界を超え彼らの頭のなかには9条の片鱗もありません。

④ 政府は憲法拡大解釈の言い分がこれ以上できなくなると、日本国憲法はアメリカ、マッカーサーに「押し付けられた」ものだから国民の手で改正しなければならないと、9条改正をことあるごとに言っています。はたして「押し付けられた」のだろうか。そもそも、日本の憲法は戦後どのようにしてつくられたのでしょうか。戦後の45年に生まれた人もすでに75歳をすぎ戦争の体験はありません。改めて「押し付け憲法」とは何だったのだろうか。現在の時点に立って考える必要があるのではないのでしょうか。

### 7 ポツダム宣言と日本の民主化

日本がアジア・太平洋戦争でアメリカに敗れた事は同時に第2次世界大戦の終結でもありました。勝利した「連合国（アメリカ）」は領土問題や賠償要求などより真っ先に日本の民主化に取り組み、新しい今の日本国憲法がつくられました。何故なら、旧憲法の大日本帝国憲法（明治憲法）の第13条には「天皇ハ戦争ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ条約ヲ締結シ」とあり、天皇に戦争を宣言する権限があります。このような旧憲法は占領政策を実行するポツダム宣言に反し認めるわけにはいかないからでした。

何故、連合国は戦争に負けた日本に民主化を要求するポツダム宣言を決めたのでしょうか。この素朴な疑問の解答には、エンゲルスが言うように「歴史的かつ全体的」に考察することが求められます。まず、第2次世界大戦の性格を読み解くことから始めたいと思います。

### 8 戦争の歴史に「世界」と名がつく ふたつの戦争

- ① 歴史は人によってつくられるとよく言われます。自然界の恐怖とたたかいながら科学技術を発達させ、そ

れはまた、産業革命によって生産用具を飛躍的に改良し人々の生活を潤しました。しかし反面、不幸にして人の歴史は戦争の歴史でもありました。そして、人は戦争の悲劇・残酷さから教訓を引き出し平和を求め努力をしてきたのも事実です。20世紀前半にはこれまでの歴史にはなかった“世界”と名の付く戦争が2度ありました。

20世紀の直前の1898年にはフィリピンとキューバをめぐるアメリカとスペインの米西戦争、1899年には南アフリカでイギリスとオランダのボーア戦争、20世紀に入ると1904年の日露戦争、1914年には25カ国が参戦するという第1次世界大戦、大戦中に起こったロシア革命への干渉戦争（日本は1922年までシベリア出兵）など植民地争奪戦の戦争が起こりました。

戦争に疲弊した世界の各国は1920年に国際連盟を結成し一時期の相対的安定期を迎えます。1928年にはパリで不戦条約が15カ国（1938年までに当時の独立国の9割の64カ国）によって調印されます。

## ② ファシズムの台頭

しかし、この小康状態も1929年の資本主義社会を襲った世界大恐慌（5千万の失業者）、敗戦国ドイツに対して1320億マルク（約200兆円）という支払い不可能な賠償金を科します。ドイツのマルク紙幣は1913年に比べて1兆分の1にまで下落し経済破綻をきたします。侵略戦争は国際犯罪であるとした国際連盟、戦争の放棄・紛争の平和的解決を謳ったパリ不戦条約などの平和条項は活かされず、勝利国による領土再分割要求（ドイツは植民地をすべて奪われます）・賠償金の取り立てという従来の「戦争が国境を決める」というやり方を克服できませんでした。日本では1931年に満州事変、1932年に傀儡の満州国をつくり、1937年には日華事変を起こし全面的に中国侵略を開始します。イタリアでは1932年にムソリーニの率いる「ファシスタ党」がローマに進軍し政権を国王・支配層から任せられ、植民地をもたなかったイタリアは、1934年からエチオピア侵略の計画をすすめる翌年首相のムソリーニは侵略を開始します。

ドイツでも1923年「国家社会主義ドイツ労働党」（ナチ・ドイツ）がミュンヘン一揆を起こします。過大な賠償金・経済破壊、労働者階級の社会主義革命の危機に悩むドイツの保守層はナチ・ドイツと手を組み合法的にナチ・ドイツは政権につきます。

## ③ “戦争が国境を決める”という戦前の国際社会の通念

第2次世界大戦（1939～45年）は一般市民を戦争に巻き込み、その残虐性（ユダヤ人虐殺・南京虐殺）は戦争の性格を変え人類の危機をつくり出しました。これまでは国と国との戦争は戦場での兵隊同志の戦いでしたが、第1次大戦からは非戦闘員を総動員する総力戦となりまた、航空機の発達により空爆が行われるようになり一般国民の犠牲者が多数出るようになり

ます。第2次大戦になるとさらに戦争の性格が変わります。ナチ・ドイツのユダヤ人を1000万人虐殺するという計画がアイヒマンらによってつくられ400万とも600万とも言われるユダヤ人が虐殺されます。

また、日本の軍隊は「殺し尽くし、焼き尽くし、奪い尽くす」という三光作戦を行います。南京事件では20万とも30万人とも言う中国人を手あたり次第に強姦・虐殺しました、生きた人間を生体解剖したり、ペスト、チフス菌を空からばら撒く、また、中国人の首をどちらが早く切り落とすかという“百人斬り競争”など、ファシズムの言語を絶する非道な手口はもはや戦争に値するものではなく軍隊を人殺しの集団に変えました。第2次世界大戦は一般国民を犠牲にするという意味でそれまでの戦争の性格を全く変えてしまいました（ヒロシマ・ナガサキの原爆投下も）。民間人の犠牲者は第1次世界大戦と比べて50倍にもなりました。

## 9 人類危機は新しい時代精神を創り出します

このような戦争の性格の変化は人類の危機となって世界各国の人民を立ち上がらせていきました。それは“自由と平等を保障する平和な社会”を求めるというこれまでの歴史で実現できなかった“新しい時代精神”を創り出す原動力となっていきました。その力は世界の指導者を動かし、①紛争の平和的解決、軍備縮小などを目的とした国際連盟の結成（1920年）、②紛争解決のために戦争に訴えることを禁止し、戦争放棄を宣言した1928年のパリ不戦条約（9条の先取り）、など新しい時代精神をつくり出しますが列強の利害が交錯しファシズムの台頭、第2次大戦を防ぐことができませんでした。

このような戦争状態からファシズム打倒と新しい時代精神実現の主役を担って登場してきたのが、アメリカ大統領のフランクリン・ルーズベルトでありイギリスのチャーチル首相、ソ連のスターリンでした。1941年8月、ルーズベルトはチャーチルと会談し「大西洋憲章」に署名し、日独伊ファシズムを打倒し戦後の国際社会の在り方を8項目にわたって宣言します。その第1項目には、勝利国は敗戦国に領土の拡大要求をしないということを確認します。この事は、紛争の平和的解決や戦争放棄を決めた、国際連盟や不戦条約が失敗した要因に交戦国同志の領土拡大要求について対策が取られなかったことの反省から生れたものです。日本敗戦が領土問題や賠償問題にこだわらずにファシズムの再来を招かないために日本の政治・経済構造まで踏み込んだ民主化・日本国憲法の制定が占領政策の最大の目的となったのです。大西洋憲章はその原点でありポツダム宣言はその原型となったのです。次回に記します。

（伊達郷右衛門） （続く）

# 百里で始めた開拓生活 (その3)

梅沢 優 (百里基地反対同盟・百里の会)

## 小学生のころ (続き)

父の出稼ぎは小学一年の長男には過酷なこともありましたが、夜は母と子だけです。犬はもちろんでしたが、夜は母と子だけです。家の周囲で足音がすると、小学生の私がナタを握りしめて外に出ます。隣は、200mも離れていますので、不審者である事は間違いありません。子供心にとても不安でした。しかし中学校に入る頃には怖い物はなくなっていました。そして今まで私は怖いという感覚を持ったことはありません。

落花生の殻で煮炊きや風呂を沸かしていた生活も、父が開拓農協の組合長をしていた時、集落に防風林帯として松を植え、その下枝が取れるようになると効率が良くなり、ついには石油コンロも使うようになっていました。当時は馬車が中心でしたので、自動車がたまに通りますと、車だ!と言って授業中でも皆が見るのです。馬車の轍で動けなくなった車の脱出を見届けてから学校に着くと、なんと皆はお弁当を食べていました。母に同級生が告げ口をして、ひどく叱られたものです。

学校に行く百里の長い行列は壮観で最後の人はなかなか出発できません。歩いて4kmの道を同級生はモンペと下駄で通いました。学年は2クラスあったのですが2年生になると、一気に1クラスになり、連戦連勝の部落対抗も全く勝てなくなりました。その後も生徒の減少は続き、数年前には入学者が3人くらいに、そして今年寂しく廃校となります。医者も少なく、盲腸や破傷風で何人もが亡くなり、思い出に写真が貼ってありましたので、私の子供が小学校に入った時、参観に行ってみると同じく写真が何枚か貼ってあり、自分達の時より亡くなる人が多いと感じながらも聞いてみるとクラス全員の写真とのこと、この様な少子化の時代が訪れるとは想像すらできませんでした。そして電気が来て驚いたのは、夜も起きて居られる様になった事でした。今まで皆に比して成績が思わしくないのも納得です。その内近所にテレビが入り、毎晩300mも歩いて見に行く様になり、勉強などしていたら見られませんから元の木阿弥となりました。

百里基地の工事が始まり、飯場が建つと風紀は一気に乱れました。見たこともない風体の人たちが集まり、遠くから来たと一目で分かる女性達から、私は伝言や手紙を時にお小遣いと共に頼まれます。学校帰りの山中でまっ最中に出会ったことも一度や二度ではあり

ません。草むらには隊に持ち帰れないエロ本が捨てられ、環境は小学生には目の毒そ



のものでした。飯場に遊びに行くと飯炊き女はそれこそ一日中、飯を炊いていましたし、コンクリートプラントは休みなく動いてセメントを吐き出していたのです。

さて話題が急に変わりますが、今日水戸で「松川事件」の映画があり見に行きました。実は小学校卒業の年「松川事件」の高裁無罪判決があり、子供だった私も大いに興味を持ってテレビのあった学校の宿直室に見に行ったのでした。数年後には知り合いとなる弁護士の活躍を友達や先生と一緒に喜んだのです。その一人、風早八十二氏はこのように弁護します。大岡越前が犯した冤罪に苦しみながらも自分で実証すべく、庭師である正直者の爺やを相手に庭石の上に金子を置き、見たことを確かめた上で、回収し爺やに罪を着せませぬ。無実と言い張る爺やに、誠ならこの真っ赤に焼けた火箸を握ってみせろと言うと、爺やは私が取りましたと白状したのです。自分の誤審から二人を殺した越前は、拷問が自白を生む冤罪を確信し裁判官を退職したのでした。とても静かでダンディな風早さんが法廷でこの話を展開し、冤罪を批判する気迫があったとは驚きでした。岡林辰男弁護士が若い時から親交のあった岡林旋一さんのおじさんだったことも後から知るので、高知県の生んだ偉人の一人と言えます。次回は中学に上がる頃からお届けします。それはそれはとんでもない中学校だったので。

(次号につづく)

\*茨城AALA会報 175号 2021年4月1日

より転載

**自己紹介** 戦争の為の基地に反対し、土地を売らずに自衛隊の解体を目指す平和運動の一員です。憲法には個別的自衛権すらも書いてありません。21世紀の人類の未来は、武力からは生まれないと確信して活動しています。